

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	873800718		
法人名	有限会社モデンナ・ケアサービス		
事業所名	グループホームわかぐり		
所在地	稲敷郡阿見町鈴木136-3 (電話) 029-891-2300		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年9月21日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月11日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤18人, 非常勤4人, 常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての 1～3階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	26名	男性	7名	女性	19名
要介護1	4	要介護2	9		
要介護3	11	要介護4	2		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 78.7歳	最低	57歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	滝沢病院 神立病院 つくば双愛病院 ぬまじり歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは地域で踊りや歌、アートフラワーで活動しているボランティアを受け入れ、利用者は楽しんで活動している。
また、地域の夏祭りへの参加やホームで企画する納涼祭に招待するなど、地域との交流に努めている。
併設する有料老人ホームとは、利用者の健康状態や緊急時に協力を得られる体制となっている。
ユニットの管理者は、利用者一人ひとりに気配りと更なるホームのケア等の向上に熱い思いで取り組んでいる、ホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>ホームでは前回の外部評価の結果を受け止め、改善点を管理者や職員で話し合うとともに、苦情の相談窓口や担当者の設置、職員の目配りと声かけによる鍵をかけない配慮、地域交流の促進、利用者一人ひとりに応じた金銭支援などの改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者や職員は、評価の意義を理解するとともに、日頃のサービスを分析し、更に質の高いサービス提供につなげるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の状況などを報告するとともに、参加者からの意見や要望を聞いて改善している。 地域のボランティアと定期的に交流を行い、ホームの役割を理解してもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>利用者等からの相談または苦情等に対応するため、窓口や担当者を設置するとともに、説明資料を作成し、家族に説明している。 また、運営推進会議で家族などが意見、不満、苦情等を訴えることができるよう配慮している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>踊りや太鼓、歌、アートフラワーのボランティアが定期的に訪問している。 また、地域の夏祭りに参加するとともにホームの納涼祭へ招待するなど、地域の方々と交流している。 認知症を予防するため、利用者ばかりでなく、近隣の方に呼びかけて公文書の講座を開催している。</p>
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の支援をするにあたり、三項目に簡略化したホーム独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者や職員は、理念を常に携帯するとともに、家族や来訪者にも周知を図っている。月2回のホーム運営会議では、理念の実践に向けた意見交換を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	踊りや太鼓、歌、アートフラワーのボランティアが定期的に訪問している。 また、地域の夏祭りに参加するとともにホームの納涼祭へ招待するなど、地域の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームでは前回の外部評価の結果を受け止め、改善点を管理者や職員で話し合うとともに、苦情の相談窓口や担当者の設置、職員の目配りと声かけによる、鍵をかけない配慮、地域交流の促進、利用者一人ひとりに応じた金銭支援などの改善に取り組んでいる。 管理者や職員は評価の意義を理解するとともに、日頃のサービスを分析し、更に質の高いサービス提供につなげるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の状況などを報告するとともに、参加者からの意見や要望を聞き改善に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設する有料老人ホームと連携し、地域包括支援センターを定期的に訪問し、相談するとともに、受けた助言をサービスの向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日常の様子を伝えている。また、行事などの写真をホールなどに掲示しているが、ホーム便りを発行するまでに至っていない。	○	口頭による報告ばかりでなく、書面による報告をできるように、広報紙等を発行することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者等からの相談または苦情等に対応するため、窓口や担当者を設置するとともに、説明資料を作成し、家族に説明している。また、運営推進会議で家族などが意見、不満、苦情等を訴えることができるよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員に支援が受けられるようスタッフの移動、離職は最小限に抑えている。止むを得ず移動や離職があった場合は、利用者へよく説明しダメージを防ぐよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織内に教育研修課を設け、管理者は毎月実施している勉強会に参加し、職員にその内容を伝達している。 また、職員が外部研修へ参加する際の費用は事業所が負担している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の加入や年に1回地域の同業者と交流する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する方には、ホームの雰囲気等に馴染んでもらえるよう、1週間程度の体験入居ができる。 その間に、職員や利用者との関係づくりに取り組むとともに、本人や家族と相談し介護計画を作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常生活において、利用者が配膳下膳や洗濯物たたみ、草花の手入れ、野菜づくりなどができるよう場面づくりをしている。 その際に、利用者の話をよく聞き、尊敬の気持ちを常に持って支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や経験、過ごし方の希望などを把握するとともに、利用者自らが選択することを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意見や要望を把握するとともに、利用者の日々の状況を観察し問題点などを職員間で話し合うとともに、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間満了時や状況の変化に応じて見直しを行っている。 介護計画を見直すにあたり、本人や家族と話し合いを行うとともに、常に現状にあったケアプランを作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の有料老人ホームの職員や看護師等の協力を得て、利用者の状況に応じてマンツーマンの対応している。 また、老化予防のために家族から理解を得られた利用者に学習支援（公文式教室）を行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時にかかりつけ医及び協力病院で診察を受けることができるよう関係づくりをしている。 また、隣接の有料老人ホームに常駐している看護師に相談できる体制がある。 歯科医師の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応について、隣接する有料老人ホームの看護師から専門的な知識や助言を受けている。 家族の意向を尊重し、医師等と話し合いながら取り組んでいるが、方針を職員や家族と共有するには至っていない。	○	重度化や終末期における対応について、法人やホームとしての取り組みを職員と検討するとともに、家族の意向の確認や承諾を得る書式づくりを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人格を尊重するための最善の方法を職員間で話し合い、現実を否定しないよう、心がけている。 また、個人情報の保護を徹底し個人情報の利用目的に即した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が声かけを行う際に、利用者のペースを尊重した対応やその人らしさを重視したケアを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの中に利用者の好きな物を取り入れている。 また、利用者間で配膳や下膳、洗い物などの役割を決めて、職員と一緒にやっている。 利用者と職員と一緒に食事をしていないが、食事の間に職員は見守りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態を確認するとともに、入浴の希望や訴えを受容して、シャワー浴や清拭を行っている。 入浴を拒否する利用者には納得してもらうよう心がけている。 また、隣接の有料老人ホームの機械浴を利用している利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳や下膳、洗い物や洗濯物たたみ、植木の水遣りや畑の植え付け、草取り、収穫、気の合う利用者との語り、カラオケ、手工芸、犬を飼うなど、個々の楽しみを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食、お花見、大仏見学など、利用者の意見を聞いて、季節の行事として取り入れている。 また、流しそうめんや近所の散歩、買い物など利用者が外に出る機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者に対し常に目を配り、職員間で声を掛け合っている。 玄関に鍵をかけてはいないが、階段は転落の危険があるため、また、隣接の有料老人ホームとの渡り廊下は転倒の危険防止のため施錠している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。 また、災害時に備え非常用食品等を備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握して排泄チェック表で観察、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	水槽で魚を飼ったり、ホール内に行事の写真を掲示、ベランダに花の種をまいたプランターを設置するなど、家庭的な雰囲気になるよう、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、利用者が使い慣れた家具などを持ち込んでもらえるよう家族に説明するとともに、本人の好みに応じた配置をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。